

「第 1 回 高松塚周辺地区再整備方針検討委員会」議事メモ

【日 時】 令和 5 年 3 月 16 日（木） 15 : 00～16 : 35

【場 所】 国営飛鳥歴史公園館 2 階視聴覚室、オンライン会議室の併用

【参加者】（委員） 小野委員長、井原委員、里中委員、染川委員、

武田委員、田中委員、筒井委員

（協力委員） 明日香村 森川村長

公益財団法人古都飛鳥保存財団 小川常務理事

奈良県地域デザイン推進局 柳澤次長(代理出席)

文化庁文化資源活用課 篠田課長

国土交通省近畿地方整備局建政部 三井公園調整官(代理出席)

※ 下線 : web での出席

【議事事項】**1. 規約案について**

（特段意見なし）

2. 本委員会の検討事項等・スケジュールについて

（特段意見なし）

3. 高松塚周辺地区の現状と課題、再整備に際して留意すべき事項

- 高松塚地区再整備方針について、本公園に付随する機能を体系的に整理した上で、検討内容を明確にする必要があるのではないか。また、ここに掲げる「再整備」とは、ハードだけではなく、管理・運営・展示などのソフトを含む広義のものだと思うので、何をどこまで検討し方針として導出するのか、全体の枠組みをもう少し整理する必要があると考える。整備には、高松塚周辺地区に求められる機能が前提となる。
- 飛鳥歴史公園は、歴史的風土の保全のために各々具体の機能を付与され整備されてきた経緯があり、それを主軸に置いた検討が必要と考える。資料中では時代ごとの要請や情勢の変化の中で考えられる付加的な機能と混在して、高松塚周辺地区整備当初からの核となる機能がぼやけてしまっている。
- 本公園は歴史的風土保全、周辺景観と融和するよう、施設整備を最小限に抑えたデザインが特徴であり魅力でもある。従って、社会情勢を踏まえた課題全般に対して、それをすぐにハード面の整備に反映する必要は必ずしもないのではないかと考える。文化庁施設が既に検討されているという喫緊の課題に対する方針は必須だが、ハード面の整備については基本的に慎重に検討していく姿勢は大事だと考える。
- 明日香村全体を開発から守ろうということから明日香法が制定され、国営公園の整備や景観の維持保全が 40 年にわたり行われてきた。この守られ整備されてきた地域をどう使っていくか

が論点になる。また、現在、登録を目指している世界遺産の構成資産を合わせてどう説明していくかについても検討の前提として留意した方が良いのではないか。

- 本委員会は、国土交通省の整備する公園についての委員会だが、文化庁や明日香村にも関わりがある話であり、整備・運営等様々な局面で連携を持続していく必要がある。
- 再整備にあたっては、明日香村、飛鳥歴史公園として、どのような来園者層により一層来ていただくことを想定して整備するのかについて、明らかにしておいた方が良い。併せて、オーバーツーリズムを避けるための検討について、想定する来園者層の議論とも関連させて実施することが必要。
- 多言語対応のためのツールが普及しつつあり、よりコンテンツの内容自体が重要視されている。インバウンド対応として、海外の方々が興味を持っている内容に応えられるコンテンツがゲートウェイにあることが重要。ガイド機能の方針も必要。
- 公園再整備の方針を検討するにあたり、利用者の目線で検討を進めることが原則と考える。公園だけが明日香村に来る理由ではないので、公園以外も含めて、明日香全体に対して、来園者がどのような体験を求めている、そのためには何が必要であるかというような順で検討していく必要がある。その点から、事務局が整理したゲートウェイの考え方は適切だと考える。
 - ・案内機能という観点からは、地域全体のつながりをどのように見せるかが重要である。
 - ・理解の促進という観点からは、地域の国宝等をどのように見せて魅力を感じてもらうかが重要である。
 - ・休憩機能という観点からは、公園内に休憩できるスペースが不足していることへの対応に加え、人と人のつながりを生む交流の視点が重要である。
- 高松塚周辺地区は飛鳥駅から比較的近く、飛鳥地域のゲートウェイとしての役割を果たすのではないかと考える。
- ゲートウェイとしての機能を十分に発揮するためには、鉄道も含めた公共交通機関でのアクセス性の高さ、いつでも利用できるといった公共交通機関の利便性の高さが重要なのではないか。
- 壁画だけでなく古墳も公園内の重要な施設であることから、古墳をどう見せていくかについても、考えていく必要がある。
- 利便性向上のために、wi-fi の整備が必要なのではないか。
- 近年、電動自転車等の移動手段について、進展が見られ、観光客の移動範囲が変化している。観光客の移動範囲が広がることを想定した検討が必要である。
- 安定して、高品質な情報を提供するという観点から、地域としてプロのガイド育成や、案内音声の整備等に取り組むべきではないか。

- 世界遺産に登録された場合、利用者属性が変化する可能性がある。特に外国人観光客については、持っている前提知識が異なるため、それに応じた説明が必要となる。
- 持続可能性という面では、低炭素化が世界の潮流であるため、インバウンドの取組みを進める場合は特に配慮した整備が必要。
- 時間的に厳しいかとは思いますが、例えば 2025 年に開催される大阪・関西万博の際には、多くの外国人観光客が来訪すると考えられるので、そのような観光客に明日香の魅力を伝えられるようなタイムスケジュール戦略も重要と考えられる。

(以上)